

「介護食品」の認知率ほぼ5割

本会では、介護食品やUDF（ユニバーサルデザインフード）の認知度調査を隔年で行っており、調査年の今年は4月に実施しました（前回は令和2（2020）年4月）。調査対象はインターネットアンケートに参加した一般消費者で、食事介護者の有無や年代別に集計を行いました。

この結果、介護食品が市販されていることを「知っている」との回答は全体で49.0%と前回の49.2%とほぼ同数でした。このうち「家族に食事介護者がいる世帯」を見ると、51.7%が「知っている」と回答（前回55.8%）。「介護者がいない世帯」についても48.2%の認知率でした（同47.6%）。「ユニバーサルデザインフードを知っている」については、全体で12.2%と前回に比較して若干減少しました（前回13.2%）。これは「食事介護者あり世帯」を見ると22.4%でした（前回24.9%）。

また、年代別集計を見ると、介護食品が市販されていることを「知っている」については60代以上が63.0%と最も高く、50代54.0%、40代50.5%、30代42.5%、20代35.0%の認知がありました。逆に「ユニバーサルデザインフード」の認知率については順に、20代17.5%、30代14.5%、40代13.0%、60代以上9.5%、50代6.5%と若年世代で高い傾向にあります。

さらに、「低栄養」についての認知率では、「よく知っている」15.3%（前回11.1%）、「名前だけ知っている」25.6%（同28.4%）、「初めて聞いた」59.1%（同60.5%）でした。「食事介護者あり世帯」では順に、28.9%（前回22.8%）、21.1%（同34.5%）、

50.0%（同42.6%）でした。低栄養についての理解は、介護への関連の有無にかかわらず高くなっている様子がうかがえます。年代別の認知度では、「よく知っている」は60代以上が20.5%、「名前だけ知っている」は50代32.0%、60代以上31.0%、「初めて聞いた」は30代が67.5%でした。

本会では、今後もユニバーサルデザインフードについて、普及活動をさらに積み重ねて参ります。

【調査方法等】

- ①調査方法：インターネットアンケート
- ②調査対象：インターネット調査会社（ネオマーケティング社）に登録している全国の一般モニター会員1,000人（20～60代以上・男女各100名）
- ③対象地域：全国
- ④調査期間：令和4（2022）年4月

【会議、催事等の予定】

7月15日（金）第21回定期総会・特別講演会
（ホテルメトロポリタンエンドモント）

【UDF 商品登録状況（2,214品目・5月末現在）】

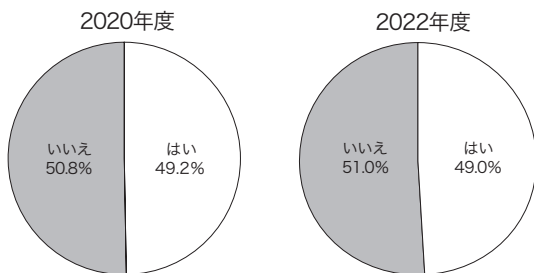
	区分1	区分2	区分3	区分4	とろみ調整	拡張	合計
乾燥食品	0	11	8	1	91	4	115
冷凍食品	343	258	781	20	0	0	1,402
常温食品	239	81	213	162	2	0	697
合計	582	350	1,002	183	93	4	2,214

【会員の異動（5月）】

退会会員4社：小川香料(株)、(株)海渡、(株)永谷園、(株)マルハ物産
計89社（5月末現在）。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集していません。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2
翔和神田ビル3階
TEL 03-5256-4804
FAX 03-5256-4805
<https://www.udf.jp/>



あなたは介護食品が市販されているのをご存知ですか